

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第108版

理念と実践で
絆を結びます

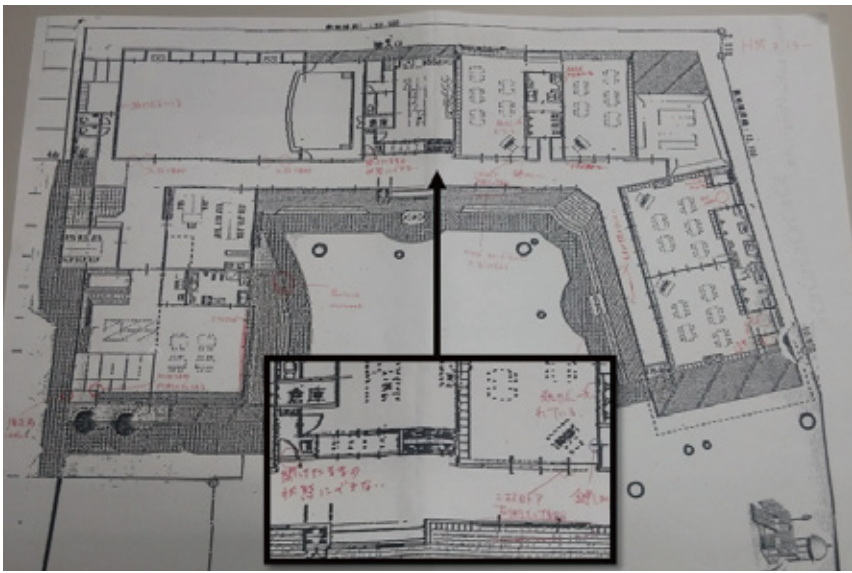
平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

無料メールマガジンも
配信中です

神家総本家
瓦版



こちらから登録いただけます
[www.caguya.co.jp/
kawaraban/](http://www.caguya.co.jp/kawaraban/)



このような図があると、修繕もまるで宝探しのよう楽しめるかも?!

皆で修繕していく大切さ ～自分たちで創る～

茨城県那珂市にあります、かしま台保育園様にお伺いした時のこと。
職員室で園長先生が見せて下さった一枚の用紙、そこには園舎の見取り図が印刷された上に、赤字で所々にメモ書きがされていました。「扉を開けたままの状態にできない」「鍵が閉まりにくい」「クロスがやぶれている」「ライントつかない」など、これは職員の方々が日々働く中で気づいた園内の修理の必要な箇所を、それぞれが書き込んで

いるものなのだそうです。
こんな風に、自分たちが働く職場のほころびを皆で見つけ合い、修繕していこうとする取り組みは、園を自分たちで守り創り上げていくことにも繋がるように感じます。このような些細なことから、園の事を自分事として考える主体的な働きは生まれてくるのかもしれない。
私たちも、誰か任せではなく自分たちで組織を創り上げていく気持ちを大切にしていきたいと思います。



楽しいからこそ深まる学び。

先日、京都府の鞍馬山保育園様にお伺いしました。
去年一年間、園長先生を含め、職員の皆さまと一緒に新指針を学び、園の理念にも沿った保育を行っていただけるよう、新指針に書かれている「全体的な計画」を年間かけて話し合い、作ってこられたそうです。
そして、新指針が施行された今年は、その「全体的な計画」をどの様にして具体的に実践していくのかということの研究していくため、弊社の「ミモリングソフト」を使って研修をしたいとのことでお声掛けを頂きました。
体験型研修を終えて、先生方の感想をお聴きすると、「複数でチェックをつける良さを改めて感じた。」「普段記録をつけていない先生からも子どもを見守る視点を情報としてもらえるのが大きかった。」



皆で見るからいろいろな見守りが入ります!

「補助の先生からも『どういう風に接していけばいいかをソフトを通じて共有出来たらいいね』と言ってもらえたので、嬉しかったしそうしていきたい。」などの声もあり、皆さまが「一緒にその子のことを話し合う」大切さを話しているのが印象的でした。
指針の発達項目に沿って、その子のことを話し合いながら必要な配慮や環境を話し合う。そんな先生方の姿には、笑い声や笑顔が沢山見られ、一人でやるよりも皆でやることの大切さを私たちも先生方の姿から改めて感じる機会となりました。

背景にある物語

千葉県の大貫保育園様は自然が豊かな土地柄を活かし、「青空保育」という果物狩りなどの野外活動を特に大切にされています。「丈夫な体をもつ子ども」「自然に接し、色々な事を経験し、自ら体験する子ども」という、園の目指す子ども像からの取り組みであることは想像がつきますが、なぜそれを大切にしているのか、その背景やエピソードを詳しくお聴きしてみました。

30年前のこと。園長先生が新人の先生方に果物の絵を描いてもらったところ、ほと

んどの方がバック詰め用の果物を描いたのを見て「体験がないと果物がどう育っているかわからなくて数日経ったものだということが分からない。子どもたちに本物の味を教えてあげたい。」と思い、この取り組みを大事にし続けてきたのだそうです。

一つひとつお聴きしてみると、園の取り組みの全てが園長先生ご自身の体験に裏付けされているのが感じられました。上辺ではなく、その背景にある物語を私たちも大切にしていきたいと思います。



行事一つでも、その目的や背景を共有する大切さを感じます。

カグヤでは、クルー同士別々の場所にいても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

先を見て考える



『むかしの田んぼ』では、農業や化学肥料を使わずに、できるだけ生き物いっぱいの環境を心掛けています！

先月末に、カグヤの『むかしの田んぼ』の草刈りを行いました。一昨年からジャンボタニシのおかげもあり草刈り不要でしたが、今年は冬の厳しい寒さでジャンボタニシが激減し草が順調に育っており「このペースでは今日全部とるのは無理かも」と思っていた矢先…田んぼをお借りしている藤崎農場の方たちが「きりがいいからコナギはそのまままでヒエとか重点的にとっていこう」と話しているのを耳にしました。コナギを

今年も味わえる喜び

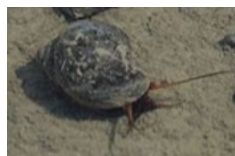
今年も大阪の方から立派な梅をたくさんいただきました！社内に広がる熟し始めた梅の甘い香り…。いつでも味わっていたところですが、梅がどんどん傷んでしまうため早速仕込みます。まずは昨年漬け方を教えてもらいとても美味しくできた「梅のらっきょう酢漬け」に再チャレンジ！そして今年は氷砂糖を使ったシロップ漬けも仕込んでみました。これなら酸っぱいものが苦手な人がいても、皆で味わうことができます。梅を洗ったりヘタを取ったりという作業になりがちなこと、赤く色



美しい梅ちゃんぷほんのり色づきコロコロとした見た目にも癒されます。



初挑戦のシロップ漬けは梅と氷砂糖を交互に入れ2〜3週間で出来上がり！



害虫と呼ばれる「ジャンボタニシ」も草刈りのお手伝い！



草刈りの後は、昔ながらの「早乙女衣装」で撮影会！笑

一生懸命とっていた私たちは「え！」と驚きでしたが、後々お聞きしてみると、やみくもにきれいに草をとればよいわけではなく、状況により優先順位があることを知りました。ポイントとは、翌年以降の影響を考え、種がこぼれるものや多年草の草を優先的に取ること。それ以外（一年草のコナギなど）は「そのまま田んぼにいてもよい」という感覚でした。仕事でも優先順位が求められる中で「今その時」だけを見るのではなく「先々」の影響を考えながら「こうじゃないとダメ」などの排除志向や完璧主義、減点法の眼差しに注意して、子どもたちが懂れる働き方を大事にできたらと思っています。

非常を日常に！

天災は忘れたころにやってくるとはよく言ったもので、東日本大震災から七年。直後に買い揃えた防災グッズは口ッカーに山積みになり、非常食はどれも賞味期限を過ぎてしまいました。今更ながら、記憶とは時の流れに紛れてしまうのだと思い知りました。

「非常を日常に！」と見直し、非常食の賞味期限を共有のスケジュールに入れ込み、期限が近くなったらお昼ご飯と

して食べて実体験していくことにしました。非常食自体の保存期間も一年、三年、五年とずらし、年に一度は必ず見直す機会を持つようにしました。一番の備えは、常に意識し続けることです。そのことを忘れないよう改善を続けていこうと思います。



非常食は防災用品と一緒に全員のリュックにセット。これで非常時も安心！



いざという時、いつでもすぐに避難できるように準備を整えて…。

世界標準の保育

一期一会庵

先月、一週間ほどドイツのバイエルン州の保育園や幼稚園、学童保育の視察に行ってきました。数年ぶりの視察でしたが、バイエルン州の定める「陶冶プログラム」に着実に向かいそれぞれの園が進化成長を続けている様子に感銘を受けました。特に印象に残ったのは「オープン保育」。これは「すべての子どもたちが心地よく過ごせる場所」を提供する子どもの人権を尊重する自由な保育を実践することです。具体的には園の中は常に職員全体で園全体の子どものための保育をしており「私のクラス、担任の先生」という概念が取り払われ、大人も子どもも「私たちの園児、私たちの先生」などと一切分けずに全体としてオープンにお互いを見守り合う関係を築いていたことでした。日本でも『ミマモリングソフト』を導入する中で「今までクラス単位で一斉に見てきたから、一人ひとり

の子どもを見るのは大変です」という声もあります。しかし子ども一人ひとりを皆で見守ることができてはじめて、その子どもの主体性は保障され、その持ち味を発揮して所属する集団の中で自分の役割を発揮できるようなになるのです。子ども集団は一つの社会そのものですから、その社会ではじめての体験を通して、人間は社会で共生し自立していくことを学びます。「世界標準の保育」は、どの国も子どもを何もできない存在としてではなく、子どもは本来人間として全てをもって生まれてくるという子ども観から実践されています。

子どもを信じるということは、自分たちもまた子どものお手本になるような生き方を実践していくことです。すから、引き続き、社業を通じて世界標準の保育の実現に向けてお客様と一緒に「子ども第一義」に取り組んでいきたいと思っています。

【編集後記】

この度の豪雨により甚大な被害に遭われた地域の皆様が心穏やかに過ごせますよう、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます